

中学部学部研究まとめ（C・Dグループ）

1. ケース児（I君）の2年間を通してのコミュニケーション・表現力・対人関係の成長の様子

●コミュニケーション・表現力

【12年度】

| 課 題 | 指導方法・内容 | 結果と今後の課題 |
|---|--|--|
| ○トーキングエイドでの表現 ・伝えようとする腕が引き込み、うまく伝えられない。 ・伝えられても、細かい表現までは引き出せない。 | ・授業以外の場面でも、トーキングエイドで話す機会を増やしていく。 ・答えが解っている簡単な質問をしたり、YES/NOでの簡単なコミュニケーションを増やしていくことで、コミュニケーションを取れる回数を増やしていく。 | ・簡単な単語やセンテンスが伝えられるようになってきた。 ・姿勢を保つのに精一杯。将来的にも楽に伝えられる方法を見つけて、時間・エネルギーを考え本人に選択させるのも大切 ◎姿勢の問題 ◎他の表現方法 |
| ○授業内での適時性の問題 ・トーキングエイドでの表現を引き出すには時間がかかる。 | ○発問の仕方への配慮 ・全体への問いかけは、YES/NOで答えられる範囲でなるべく問いかける。 ・発言する生徒を特定し、発言する場面と聞く場面のメリハリをつける。 ・考える時間を設ける。 ○授業の展開の配慮 ・個別で関わる体験的な学習の順番を早めて、時間的余裕をつくる。 ・話す内容が複雑だったり、長くなると予想できる場合は、事前に聞いておく。 （日常場面・個別の国語・家庭での宿題等） ○シンボルマーク・テックトークの使用（8択・16択） | ・YES/NOでの表現は、時間がかからずにできている。 ・発言場面では、時間がかかり、他の生徒を待たせてしまった。 ・展開の工夫で時間的余裕ができると、スムーズに参加できた。 ・複雑な内容に関しては、聞き出すことが難しく家庭での宿題になってしまったが、授業には参加できた。 ・自然なやりとりを潰してしまうときがあった。 ・テックトークでの表現が上手になり、英語の学習等に使用できた。 ◎テックトーク・シンボルでの表現の拡大 ◎全体の流れを大切に授業展開の工夫 |

【まとめ】

- トーキングエイドでの表現の機会を多く設けることで、簡単な内容は伝えられるようになってきた。本人も介助者も楽な姿勢で出来ることが今後の課題に挙げられた。
- トーキングエイドでの表現にかかる時間を確保するため、授業での展開の工夫を試みた。本人が授業に参加できた実感を持つことが出来たが全体の授業の流れを潰してしまうこともあった。

○テックトーク等の使用で、8択・16択で答えられる内容については、時間もかからずに表現でき、英語の学習では効果があった。更に、使用できる場面の拡大が課題としてあげられた。

【13年度】 昨年の研究の課題を受け、本年度は主に2つの中心的課題を掲げ、取り組んできた。

| 課 題 | 指導方法・内容 | 結 果 |
|-------------------------|--|---|
| ○トーキングエイドでの姿勢（介助者も・本人も） | ①箱椅子座位で ②ソファに座って | ①・割合上手に表現できたが、姿勢が長時間安定しない。 ・介助者の負担が大きい。 ・視線が高くなる事で、他生徒の様子もよく見えるようになった。 ②・本人の骨盤が安定して収まり、膝が伸びる事によって、緊張を緩和できた。 ・介助者も楽に介助できる。 ・腰がずれていくことがある。 |
| ○テックトーク利用場面の拡大 | ・主体的に授業に参加できる選択項目を考察していき、トーキングエイドと併用していく。 (意見がいいたい、ゆっくり言って欲しい、そう思う、解らない等) | ・使おうとする意欲が見られたが、トーキングエイドとの併用は複雑。 ・緊張が強いと、テックトークで表現したい合図なのかハッキリしなかった。 |

【まとめ】

- トーキングエイドでの表現が更に上達し、授業内での発言が多くなった。
- テックトーク等での表現は有効であったが、使用できる場面を選んで、逆に負担にならないように配慮する必要がある。トーキングエイドより解りやすく、将来的に他教員の介助でもコミュニケーションが取れる可能性がある。
- トーキングエイドで表現する時間を確保するための授業展開の工夫が必要。友達の見聞を聞きながらになることが多く、先に友達に意見を言われてしまったり、友達の見聞を充分聞けないときもあったが、全体の流れの中で自然に出来た。
- AACだけではない表現を豊かに解りやすく相手に伝えられるようにしていく事も重要。

●対人関係

日常的な活動や遊び等、一緒に過ごしていく中で、仲間意識を持ち、お互い認めあえる関係がより深まってきた。学習場面では、上記のような取り組みの成果もあり、ケース児の授業での発言が多くなった。その発言に他生徒も注目し、期待を持って発言を待っているし、ケース児も他生徒の見聞を聞き、それに対しての見聞を言ったりする等、生徒間での見聞のやりとりが生まれている。そのような関係ややりとりの中で、ケース児も気持ちよく発言でき、集団としての学習の流れにも自然についていくことができているものと思われる。

2. やりとりを大切にしたいグループ全体の授業づくりの工夫

①どのような工夫をしたか

「猿と人間の違いを考える」というテーマは、一般的には比較的話し合いがしやすいテーマと考えるが、肢体不自由の障害をもった生徒たちは、猿をじっくり見たり、猿のことを改めて興味をもって考えた経験は、意外とないのではないか。まず本物を意識的に見せた方がよい、と教員間で話し合った。

しかし、全員を動物園に連れていく事ができない。そこで、導入学習として、猿の生態、動きを考えるような市販ビデオを見せた。猿に関する、質問を全員に考えるようにさせた。その質問をまとめて、動物園にDグループの生徒（B君）が代表して見学に行き、チンパンジー、オラウータンをビデオに撮影してきた。質問には飼育係の方に答えてもらい、これもビデオに記録してきた。

次に、このビデオを見ながら、B君の説明を聞いた。教員に助けられての説明だったが、生徒たちはB君が説明するので、身近な感じで興味をもって聞いていた。

言葉による説明だけでは理解が難しいだろうと教員同士で話し合い、今回の授業でも実物の芋や肉、その他の食物、レストランメニューなどを示しながら考えさせた。話の展開にあわせ「実物」や「絵（写真）など」を示すことが大切と考えた。

I君やAさんのように、表出の仕方に課題があり、意思や意見の読みとりに時間がかかる生徒の「意思」「意見」については、話し合いの流れにあわせて発表できるように、工夫した。（教員が発問したあと、他の生徒がひとしきり意見を言った後、当該生徒に必ず指名する。教員が「×○君の意見を聞いてみよう」とあえて言う、などの工夫。）

②授業を行ってみてのグループ全体の様子はどうだったか？

●本日の授業について

展開は、3段階に分けて考えた。第1段階は、「猿の食べ物」と「人間の食べ物」をそれぞれ確認する（具体的な理解）段階。第2段階は、「その違い」に気づく段階（抽象的な理解）。第3段階は、「一番決定的な違い」に気づく段階（さらに抽象的な理解）。

理解力の深いB君が話し合いのリードをし、話し合いの深まるような観点でB君、I君が発言することを期待した。その展開の中で、他の生徒の発言も促され、全体として話し合い（生徒同士のやりとり）が深まっていくことを企図した。

対立するような意見がでる中で、話し合いが進み、全体として内容理解が深まっていくことが、はなし合いの深まりを企図する授業では必要だね、ということが以前グループ会で話しあわれたが、今回の授業では、そこまではねえなかった。これは、今後の課題である。

I君の表現方法が、昨年からテーマになっている。本授業では、特に授業の第2段階、第3段階で、話し合いが深まるような流れで意見が発表できるかどうか、注目点であった。

●授業の様子

第1段階

・猿と人間のそれぞれの食べ物はどんなものか、の箇所では全員が積極的に発言していた。
その中でI君の、人間の食べ物は（猿と）「おなじもの」という発言、B君の動物園で聞いてきたことを基にした発言は、他の生徒と視点がやや異なっていた。

第2段階

・「違い」の話になると、B君が話し合いをリードする。また、I君も流れを押さえた上で、全体の話し合いの深まりを反映した発言をしている。

・B君の「野生の猿は脂っこいものを食べない。ピザなんか食べないよ。」という発言は具体的に「違い」がわかる（イメージを作りやすい）いい発言だった。
・さらに教員がテーブルの上に、人間と猿の食べ物を分けておくと、B君は「真ん中に置いた方がいいものがあるよ」と発言していた。そこで、バナナ、ミカンなどを真ん中におく。
教員がどうして真ん中においたの？と質問すると、「猿も人間も両方食べるから」と理由を述べて、

みんなを納得させた。

- ・ I君も「違い」の話し合いの流れをよくつかみ、「人間は肉を焼く理由がある」と発言した。
 - ・ Kさんは、この発言を聞き、「私も訳を知りたい」と発言した。
 - ・ それに対してB君が（人間は焼かないと）「おなかをこわすから」と発言し、肉を焼く理由を考察。さらに「蒸すもあるよ」「（いためた肉には）味がついている」と続けて発言。「違い」の核心に近づく方向に話しをひっぱっている。
 - ・ しょうゆや塩を人間は味つけすると話あっていたところで、B君は、「猿の方は味付けはどうでもいい」と発言。「違い」を強調している。
 - ・ I君は、実物の調理した焼き肉料理、生の肉を見たり、以上の話し合いの流れをとらえ、「（人間は）調理する」と発言した。
- * 結局「違い」として生徒の話し合いから出てきたのは、（人間は）「調理する」「味付けする」「食器やフォークを使う」などの意見であった。

第3段階

一番大きな（重要な）違いの話

- ・ 生徒から、人間は「調理する」「食器を使う」「食べる場所が決まっている」などが出される。
 - ・ 生徒たちは話し合いの中では、どれが一番重要な違いかは、なかなかわからない様子だった。そこでガスコンロを見せると、Kさんが「ガスコンロを使って蒸し器でプリンをつくる」と発言。ガスコンロに注意が集中したところで、Tが火をつけてみる。どんぐりを茹でた話し、ピザをやく話をすると、H君から「おでんも煮てある」という発言があった。教員から「焼く、蒸す、ふかす、湯がく」などの説明をする。すると、B君から「（一番重要なのは）火をつかうことかな？」という本日の結論的な発言が出てきた。
 - ・ 最後にレストランのメニューを見て、人間の食べるものをみんなで改めて眺めてみる。このとき、たいへん雰囲気盛り上がり、みんなくいいる様にメニューを眺めていた。発言としては、「いろいろな種類の食べ物がある」（Aさん）、火を使った料理は「多いです。」（みんなから）などがあった。
 - ・ まとめの発表は全員が行った。
- D 「人間は何でも食べる」
H 「生でも食べるし、火を使う」
B 「猿は全然調理しないことがわかった」
A 「お母さんはいっぱい調理する」
K 「火を使えばいろんなものが食べられる」
I 「人間、ひをつかう。猿なま」

③グループ集団の中でのケース児（I君）の様子

全単元の導入時、本児（I君）は全く考えた事のなかった「猿と人間」という学習単位に関して興味を示した。まずは猿の絵やビデオを見たりする具体的な理解から、「猿と人間の似ているところ・違うところ」という抽象的な理解に展開していくという単元の進め方によって、しっかりと頭の整理が付き、知識として構築され、興味が損なわれることなく本時の授業に臨めた。

本時の授業も3段階に分かれ、絵や実物を見たり、いろいろな意見をやりとりする中で、各段階毎に頭の中が整理され、具体的な理解から抽象的な理解へと移行していく流れに自然についていったようだ。「猿と人間の食べ物の違い」では、最初は具体的な物を分けるにとどまったが、他生徒の意見とやりとりする中で、「同じ物を食べている」ということを発言できた。更に、「生の芋」と「蒸かした芋」の実物を見たり、触ったり、味わう中で、「料理する」という発言をし、本質的な違いに気づいたと思われる。それをうけて、他生徒から「そういえば猿は料理しないよね」「猿はフライパンを使ったりしないなあ」という発言が出始め、そのやりとりが授業全体の深まりに影響を与えた。

授業全体を通じて、とても集中しており、具体物の提示や五感を使った活動、他生徒や教員との意見のやりとりの中で様々なことに気づけた事によって、表現したいという意志が身体の緊張を適度にし、授業の流れの中で容易に介助者を通して伝えられた授業であった。

3. 反省（授業をやってみての良かった点。反省点）

●個別の生徒について（良かった点）

- * B君、I君からは、全体の話し合いを深める内容の発言が、第2段階、第3段階で出来ていた。特に、B君は、発言回数も多く、全員が話し合いの中で理解を深めるためのリードをしていた。
- * I君は、話し合いの流れに遅れず、要所要所で、話あいの内容を深める発言をしている。また、実物をみたり、友達の意見を聞いたりして、自分の理解が深まっていることが分かる発言をしていた。

●授業のねらいについて（良かった点）

- * 全体のやりとりをふかめていく、話し合いの中で理解を深めていく、という授業のねらいはある程度達成できたのではないか。
- * 個別の生徒の目標についても、認識レベルに差のある生徒たちが、それぞれねらった目標まで、理解を深めることができたのではないか。

●授業のねらいについて（反省点）

- * 第1段階や、最後のレストランの食べ物のメニューを見て考える場面では、全員が意見を活発に出すことができた。その中でまとめや理解の整理が出来た。
しかし、第2段階、第3段階では、「違い」という抽象的な概念を理解することが課題になっている生徒は、発言が少なくなった。やりとりを生徒全体で深めていくというねらいから考えると、工夫がなされるべきだったか。

●授業の内容理解に関して（良かった点）

- * 猿と人間の「重要（決定的）な違い」については「調理をする」ことではないか、というところまで、生徒の話し合いで認識が深められたが、「火の使用」までは生徒間の話あいでは到達しなかった。しかし、段階を踏んで話し合ってきたので、教員の方から最後は結論を説明した。抽象的思考にある程度慣れている生徒には、無理なく理解はされたのではないかと思われる。
- * 最後にレストランメニューを見ながら、人間の食べ物について改めて考えた時、「いろいろなものを食べている」「なまの物は少ない」など、抽象的思考が課題の生徒からも、話し合いの過程を思い出す発言が出てきている。

●授業の内容理解について（反省点）

- * 授業の第2・3段階では、抽象的理解が課題である生徒たちに対する指導上の工夫がもっと必要だったのではないか。例えば、話合った内容を整理する時に「模造紙に字を書いて説明」とか「抽象的な言葉で説明」するのではなく、具体的な絵（写真）や図やシンボルマークなどを使って「わかりやすく具体的に説明」する必要があるのではないか。また場合によっては、別の授業の時に補ってもいいかもしれない。